

●現代への疑問と不満を抱き、矛盾の解決をめざす人びとへ ―― ここHOWSで、真実の思考を追究しよう！

2023年度後期

開講講座

11月4日(土) 13時30分～(開場13時)

ロシア十月社会主義革命106周年記念集会

内容＝『連環画 花岡ものがたり』上映と朗読
会場＝東京・文京区民センター3A会議室

3月9日(土)

2024年国際婦人デー東京集会

※詳細は追ってお知らせします。

1、ストライキで闘う大衆的労働組合運動の再生へ

西武百貨店池袋本店での1日ストは、物価高騰と実質賃金の低下に苦しむ多くの労働者人民を励まし、共感を集めた。実力闘争はもとより大衆的な諸行動をいっさい忌避してきたこの国の労働組合運動主流の体たらくが逆説的に浮き彫りになった。わたしたちは、この講座で、原則的に闘ってきた労働組合の経験を継承し、その栄光と困難、達成と課題を真摯に学びたい。階級的・大衆的な労働組合運動の再生へ向けた水路を切りひらくために。

- ①11月11日(土) 尹錫悦退陣！を掲げる民主労総(映像と報告)――韓国の11・11全国労働者大会と民衆総決起に連帯！
日本の労働者・労働組合は何をつかみ取るべきか
講師＝土松克典（韓国労働運動研究）
- ②12月9日(土) オリジン労働者50数年の闘いから――わたしが後輩に伝えたい総括の視点
講師＝二瓶久勝（元オリジン労働組合委員長・元国鉄闘争共闘会議議長）
- ③12月20日(水) ストライキについて話そう！――労働運動の復権をめざして
講師＝兒玉聖史（自治労中央本部青年部長）
高野飛鳥（中部全労協事務局長）

2、急激に進む戦争体制づくり――われわれはいかにしてこの流れを止めるのか

ウクライナ事態ではロシアを一方向的に「悪者」にし、東アジアでは、中国、朝鮮の「軍事的脅威」を煽りながら、岸田政権は、米帝国主義の世界戦略に追随する形で、未曾有の大軍拡と南西諸島を手はじめとした日本列島全体の軍事要塞化を進める。戦争体制がかつてない勢いで強化される状況に、われわれはどのように立ち向かうのか。運動実践、理論研究の分野で活躍される講師のみなさんとともに考えたい。

- ①11月29日(水) 神奈川から見た日米軍事一体化
講師＝星野潔（リムピース編集部）
- ②1月24日(水) いまこそ、戦争をさせない行動を！――沖縄の反基地闘争の現場に通って思うこと
講師＝内田雅敏（弁護士・戦争をさせない1000人委員会事務局長）

3、反帝国主義・反植民地主義の視座から朝鮮を考える

2023年9月で関東大震災時の朝鮮人大虐殺から100年が経過した。6600人以上もの無辜の朝鮮人の命を奪ったこの大虐殺は、日本による朝鮮侵略戦争の過程と切り離しては考えることができない、帝国主義・植民地主義の暴力だった。しかしこの暴力はけっして「過去」の問題ではなく「現在」の問題であり続けている。それは国内においては在日朝鮮人や朝鮮学校に対する民族差別、国外においては朝鮮民主主義人民共和国に対する米日「韓」による制裁政策・軍事的包囲となって現われているのだ。この暴力の歴史をいかに断ち切り、諸民族が平和裏に共生する世界をめざすか。継続する「日本問題」を問う三講。

- ①12月16日(土) 『オサヒト覚え書き関東大震災篇』（一葉社）を刊行して――関東大震災時朝鮮人虐殺100年と現在
講師＝石川逸子（詩人）
- ②2月3日(土) 若い世代に朝鮮植民地支配責任追及の「輪」をいかに広げるか――トルバプロジェクトと『日韓』のモヤモヤと大学生のわたし(続・11月刊)』
講師＝牛木未来（一橋大学大学院生）
＝宋知樺（在日本朝鮮留学生同盟中央国際部長）
- ③2月17日(土) こんなにちの国際情勢のなかの朝鮮民主主義人民共和国――ウクライナ事態、中国包囲網、米韓日軍事同盟強化
講師＝李俊植（朝鮮大学校教授）

4、現代中国をみるアクチュアルな視点

昨年の中国共産党第20回大会において再出発した習近平三期体制は、ウクライナ戦争と「台湾危機」という「作られた危機」を利用した欧米日の中国包囲網、対中敵視政策によって内政・外交とも大変な困難に直面している。第1講では中国革命の底流にある「階級」と「民族」の関係について考え、第2講では、来春の台湾総統選を通じて、そもそも「台湾危機」とはなにか、東アジアを核とした地政学的情勢との関連で解明する。

- ①1月20日(土) 人民にとっての科学と専門家とは何か――中国における「階級」と「民族」の関係
講師＝羽根次郎（明治大学教員 中国近現代史、現代中国論）
- ②3月23日(土) 「台湾危機」とは何か――米覇権と東アジアの矛盾連関からみる
講師＝丸川哲史（明治大学教員）

5、世界のいまを直視する――「グローバルサウス」の声をきく

「グローバルサウス」が声を強めている。9月にキューバで開催された「G77プラス中国」では、開会演説を務めたディアス＝カネル・キューバ共和国大統領が「必要なのは何世紀にもわたる植民地と新植民地への従属がもたらした状況を是正することである」と主張した。しかし、米・欧・日の帝国主義勢力はNATOの拡大および「アジア版NATO」構想でこれを軍事的に封じ込め、「グローバルサウス」の一部を政治的に取り込むことで、この流れを押し留めようとしている。こうした現在の世界の動向をいかにとらえるべきか。駐日キューバ大使館書記官もお招きして考える。

- ①1月13日(土) 声を強める「グローバルサウス」、攻勢を仕掛ける米欧日豪
講師＝富山栄子（国際交流平和フォーラム）
- ②1月27日(土) 反帝国主義の旗を掲げ続けるキューバ人民
講師＝ダイロン・オヘダ（駐日キューバ共和国大使館二等書記官・政務担当）
- ③3月30日(土) 『教えられなかった戦争 フィリピン編――侵略・「開発」・抵抗』（監督＝高岩仁、制作＝1995年）上映と討論

6、世界の短編小説を読む（開始は各回とも午後6時30分）

カフカがある手紙に書いている。「書物とはわが内なる海の凍結した氷をたたき割る斧でなければならない。」斧を手にし氷原をたたき割る。それが作品を読むという行為である。ものの考え方が粹にはまり、停滞しがちと痛感するとき、自らを自らの手で焼き直しているのかと不安になるとき、その停滞とマンネリズムを打開するには、頭がぶったたかれるような作品に出逢うことだ。今期、世界文学の短編小説から最高傑作の名に恥じない四編を選ぶ。これを斧として力いっぱい振るい、氷結したおのれの海にきっぱりと水路をうがとう。

- 講師＝立野正裕（明治大学元教員）
- ①11月15日(水) クライスト作『ミヒャエル・コールハースの運命』（岩波文庫）
正義を尊ぶ男はいかにして盗賊へと変貌を遂げざるを得なかったか。
- ②12月13日(水) エドガー・アラン・ポー作『メエルシュトレエムに吞まれて』（『新小説全集』に収録）
異常な想像力と徹底した観察力を飼い合わせたポーの最高傑作。のみならず現代文学の目指すべき極北。
- ③1月17日(水) ウナムーノ作『殉教者、聖マヌエル・ブエノ』（『ウナムーノ 著作集5』（法政大学出版局）に収録）
聖職者でありながら心のうちで神が信じられぬという「荒び」を心にいだいたまま、人はいかにして善き生を生きることが出来るのか。
※本作は入手困難が予想されます。HOWS事務局でコピーを用意していますのでご希望の方はお問い合わせください。
- ④2月14日(水) ガルシア・マルケス作『予告された殺人の記録』（新潮文庫）
衆人環視のもとで行なわれた殺人は予告されていた。では、偶然はどのように人間の運命となり惨劇として決行されてゆくのか。

7、目取真俊『魂魄の道』を読む

今年2月、沖縄在住の作家・目取真俊の『魂魄の道』（影書房）が刊行された。本書に収められた5つの短編に錯綜するテーマは、沖縄戦の中で沖縄の民衆が負った記憶だ。それは「被害」か「加害」かに截然と色分けできるものばかりではない。それぞれの短編には、自らの記憶の圧迫に苦しみ続ける人が出てくる。その一人ひとりの記憶を見る、聴く、読む、想像する。そういう努力なしには、直接の体験をもたない私たちに、「私」の問題とはならない。『沖縄「戦後」ゼロ年』で目取真が語ったところである。ここに私たちは目取真文学と取り組む現代的意義を認める。

- ①12月23日(土) 沖縄戦の記憶に向き合う作家の想像力
講師＝越川芳明（明治大学名誉教授／アメリカ文学者）
- ②2月23日(金・休) 『魂魄の道』を読む――その1
報告＝田代ゆき（近代日本文学研究）
- ③3月20日(水・休) 『魂魄の道』を読む――その2
報告＝土田宏樹（『伝送便』編集委員）

HOWS講座カレンダー 2023年度後期（11月～3月）		
日程	講座	講師・報告
① 11月4日(土)	ロシア十月社会主義革命106周年記念集会	
② 11月11日(土)	尹錫悦退陣！を掲げる民主労総(映像と報告)――韓国の11・11全国労働者大会と民衆総決起に連帯！	土松克典
③ 11月15日(水)	クライスト作『ミヒャエル・コールハースの運命』	立野正裕
④ 11月29日(水)	神奈川から見た日米軍事一体化	星野 潔
⑤ 12月9日(土)	オリジン労働者50数年の闘いから――わたしが後輩に伝えたい総括の視点	二瓶久勝
⑥ 12月13日(水)	エドガー・アラン・ポー作『メエルシュトレエムに吞まれて』	立野正裕
⑦ 12月16日(土)	『オサヒト覚え書き関東大震災篇』（一葉社）を刊行して――関東大震災時朝鮮人虐殺100年と現在	石川逸子
⑧ 12月20日(水)	ストライキについて話そう！――労働運動の復権をめざして	兒玉聖史 高野飛鳥
⑨ 12月23日(土)	沖縄戦の記憶に向き合う作家の想像力	越川芳明
⑩ 1月13日(土)	声を強める「グローバルサウス」、攻勢を仕掛ける米欧日豪	富山栄子
⑪ 1月17日(水)	ウナムーノ作『殉教者、聖マヌエル・ブエノ』	立野正裕
⑫ 1月20日(土)	人民にとっての科学と専門家とは何か――中国における「階級」と「民族」の関係	羽根次郎
⑬ 1月24日(水)	いまこそ、戦争をさせない行動を！――沖縄の反基地闘争の現場に通って思うこと	内田雅敏
⑭ 1月27日(土)	反帝国主義の旗を掲げ続けるキューバ人民	ダイロン・オヘダ
⑮ 2月3日(土)	若い世代に朝鮮植民地支配責任追及の「輪」をいかに広げるか――トルバプロジェクトと『日韓』のモヤモヤと大学生のわたし(続・11月刊)』	牛木未来 宋 知 樺
⑯ 2月14日(水)	ガルシア・マルケス作『予告された殺人の記録』	立野正裕
⑰ 2月17日(土)	こんなにちの国際情勢のなかの朝鮮民主主義人民共和国――ウクライナ事態、中国包囲網、米韓日軍事同盟強化	李俊植
⑱ 2月23日(金・休)	『魂魄の道』を読む――その1	田代ゆき
⑲ 3月9日(土)	国際婦人デー東京集会	
⑳ 3月20日(水・休)	『魂魄の道』を読む――その2	土田宏樹
㉑ 3月23日(土)	「台湾危機」とは何か――米覇権と東アジアの矛盾連関からみる	丸川哲史
㉒ 3月30日(土)	『教えられなかった戦争 フィリピン編――侵略・「開発」・抵抗』（監督＝高岩仁、制作＝1995年）上映と討論	

◎HOWS附属ゼミナール

HOWS本科生と聴講生は、有志参加による下記ゼミナールに参加できます。参加費は各ゼミ毎に別途お支払いください。

①HOWS文学ゼミ（戦後文学ゼミを改称）

チューター＝山口直孝、松岡慶一

2000年から2016年まで主に戦後の文学・芸術運動を検証する作業を続けてきましたが、これを第Ⅰ期として、2018年からは第Ⅱ期、名称もHOWS文学ゼミで再出発しています。第Ⅰ期の作業を継承するのみならず、いかにして現在の荒廃した支配的文化状況を変革して、文学・芸術運動を再生していくかが課題です。

- 《2023年度後期募集要項》
- 定員 本科生20名
- ・全講座22回（各週1～2回程度）
※ロシア十月社会主義革命集会、国際婦人デー集会は本科・聴講券の対象ではありません。
・本科生は、すべての講座を受講できます。
- ◎聴講生20名
- シリーズを問わず、自由に講座が選べる8枚綴りの聴講チケットがあります。
- 費用
- ◎本科生 入学金…1万円（次期以降は不要）
受講料…前期……25,000円、後期：25,000円
・前期5月、後期11月の開講時までそれぞれ納入してください。
- ◎聴講生 聴講料 回数券…10,000円
・聴講料納入と引き換えに8枚綴りの聴講チケットをお渡しします。
- ◎一般 受講料…1,500円（各講座1回につき）
・本科生・聴講生以外の一般参加は、受付で現金にていただきます。
・1回の受講料は本科より割高ですが、一般受講より割安になります。
・聴講チケットは、期間内のみ使用できます。
- 申込方法
- ・所定の申込用紙に必要事項を記入のうえ、入学金・受講料を添えて、直接事務局に持参、または現金書留にて郵送してください。郵便振替ご利用の際は、申込用紙を別途郵送または事務局にお持ちください。
- 注意事項
- ・HOWSゼミナールについては、会計が異なります。
・講師の急病等やむを得ない事情により、日程・テーマ・講師等が変更になる場合があります。

10月7日、2023年度後期プレ企画として、「科学的に考えることの大切さ――原発・環境問題」と題する講演を小出裕章さん（元京都大学原子炉実験所助教）を招いて開催しました。講座では原発問題と戦争、環境問題その他の課題と関係が「金儲け至上主義」として明確に指摘され、原子力の利用およびあらゆる戦争に反対していく必要性が訴えられました。